

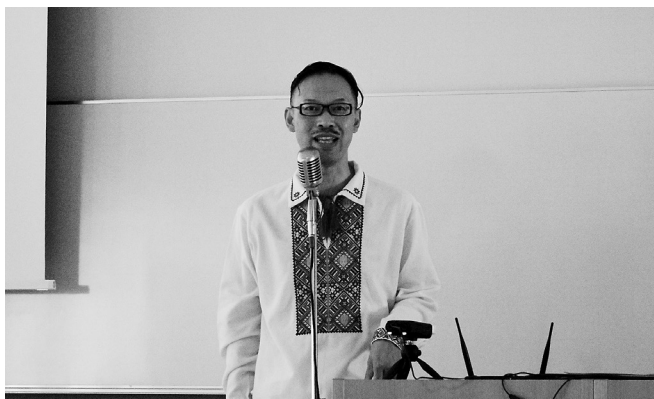
本当のウクライナを知る ～過去・現在・未来

Getting to Know the Ukraine - Past, Present and Future in Ukrainian History

神戸学院大学経済学部教授

岡 部 芳 彦

Yoshihiko OKABE



◆はじめに

講演を始める前に、少しこのスライドをご覧くださいと思います。私はこれまで36回ほどウクライナを訪問しているんですが、横着な性分なので、風景を撮った写真はほとんどありません。テレビに出演する際に「戦闘地域になっている平原地帯の写真を何かお持ちでは無いか？」などと聞かれますが、何もないんですね。そんな私が、思わずシャッターを切ってしまったのがこの1枚です。アゾフ海に浮かぶ月があまりにも綺麗だったので、カメラに収めたわけです。

この写真をどこで撮ったかといいますと、ウクライナ東部の例のマリウポリなんです。これまでならマリウポリという街がどこにあるのかを、説明しなければなりませんでした。しかし今は、多くの方がご存知です。そして、ここでは凄惨な戦闘が行われまして、少なくとも2万人、もしかしたら4万人ぐらいの方がお亡くなりになってしまったのではないかともいわれています。

そこでこの講演を始める前に、皆さん着席のままで結構ですので、お亡くなりになった方へ黙祷を捧げたいと思います。ご協力のほど、よろしくお願いします。

◆我が祖父岡部芳郎の「思い出」

ありがとうございました。それでは、改めまして岡部芳彦と申します。私の経歴については、先ほども司会の方から詳しくご紹介いただきました。ウクライナとの関わりを中心とした経歴になっているわけですが、実はこれまでロシアとの交流もけっこう盛んに行ってまいりまして、例えば日ロ大学協会の常任理事や人材交流委員といったものも務めさせていただいています。まずは、この関連のお話から始めましょう。

今日、ご用意しているスライドは何と125枚もありまして、これを1時間でどうやって説明するのか、見たところ会場には若い方が多いようなので大丈夫と思いますが、かなり早口でお話しすることをご容赦ください。最近、いろんなところから講演に呼ばれるようになりまして、6月はひと月だけで24回も講演したんですが、質問票を見ると、ご年配の方からは「先生はいつもこのようなノリで話をするのか？」といったものもあります。聞いてのとりの早口ですし、思い付きであっちこっちと話しが飛んでいきます。

ということで、ここで私の親族についてご紹介させていただきたいと思います。テレビの取材を受けるようになったのはウクライナで戦争が始まってからですが、それとは別に昨年からは地元の神戸新聞の取材をずっと受けていまし

た。それがどのような記事になったかといいますと、77年前のある人の遺品という話です。その人は岡部芳郎といいまして私の祖父なのですが、若い頃に発明王エジソンの助手を務めておりました。残念ながら1945年3月の神戸大空襲で命を落としています。家がまるまる焼けてしまいましたので、遺品は全く残っていない。ところが、ある方が若い頃の祖父の手紙をインターネットのオークションで手に入れ、そのことをツイッターに上げた。たまたまそれを見た私の友人が連絡をしてくれまして、祖父の遺品が私に繋がったという話です。このことは新聞報道のほか、まだインターネットにも話題として残っていますので、興味のある方はご覧になってください。

◆5つのキーワード

先ほども申しましたようにスライドが100枚以上あります。ここからは、あっちに行ったり、こっちに来たりという展開になります。もしかしたら、判りにくい面もあるかもしれません。そこで、お配りした資料にある通り、お伝えしたいことを5つのキーワードにしてみました。特に要点となるのが、忘れてはならないこと、2014年の経験、魔法的リアリズムの3つでして、大体この順で進めていきます。

まず、忘れてはならないことです。これは何かといいますと、理由はどうあれ、ロシアが戦争を始めたという事実は忘れるべきではありません。第2次世界大戦はおよそ1939年に始まるわけですが、その時点で、例えば日本の小学校なら6年生の12歳だとします。その後、戦争は長期に及ぶわけですが、1945年に18歳になって戦場に行かされた子供たちにしてみれば戦争が始まった理由はよく判らなかつたのではないかと。最近の研究では、そのようなことが指摘されています。ウクライナの戦争が始まって随分になるように感じますが、大戦との比較でいえば、まだまだ短い。まだ6か月です。その6か月で、実に様々な理由が指摘され、また私も申し上げているわけですが、やはりロ

シアが戦争を始めたという事実は動きません。そのことを最初に明らかにしておきたいと思います。

◆テレビ出演と書籍の出版

ここで少し横道にそれますが、戦争が始まってからの6月上旬に、サッカーのワールドカップの予選がありました。今回、ウクライナのチームは調子が良くて、あと1歩というところまでいったわけです。最後の試合、私はホームとアウェイのユニホームを両方持ってテレビの前で応援したのですが、残念ながら負けてしまいました。それから2、3日して、私の友人がツイッターに面白い投稿があるから見るように言ってきました。何でもベストチームのメンバーがあるとかで、私はてっきり次のワールドカップに向けたウクライナのベストメンバーだと思ったのですが、そうじゃなかった。ウクライナで戦争が始まって以降、日本のテレビに出ている評論家やコメンテーターのベストイレブンでした。そこに登場する方は大半が顔見知りであるわけですが、その中で私はミッドフィルダーの中央に置かれていて、どう見ても極めて重要なポジションです。

戦争が始まった時はものすごくショックを感じました。ウクライナは何度も足を運んでいる大好きな国です。そこで戦争が始まったからには、自分にできることを一生懸命にやるべきだと思ひまして、3月や4月はテレビに出ずっぱりでした。3月などは、1日の睡眠時間が平均して3時間ほどだったと思います。それくらい様ざまなところでウクライナのお話をしました。

また、書籍の出版でも貢献したいと思い、6月に宝島社から『魂の叫び ゼレンスキー大統領100の言葉』という本を出しました。幸い好評をいただいたのですが、少し高い価格設定でしたので、若い方には抵抗があったかもしれません。そこで、その後に出した『本当のウクライナー訪問35回以上、指導者たちと直接会ってわかったこと』は、ワニブックスさんにご無理を言って1番

安い830円で価格設定させてもらいました。このような本だからこそ、私は中高生の皆さんにも読んで欲しいと思っています。売れ筋のテーマを安い金額で出すことは出版社も嫌がるのですが、とにかく最低価格でお願いしますということで無理をお願いしました。この会場におられる学生さんにもぜひ購入していただき、レビューを寄せていただければ嬉しいです。

◆折り鶴問題へのコメント

（テレビ出演時に撮影された写真を見ながら）

これは関西のローカル局のニュース・バラエティ番組ですが、こちらに座られているメガネと髭の方ですね。この方は中野さんといいまして元厚生労働省の官僚であり、実は同じ大学の先生です。ところが、この方とはキャンパスで一度も会ったことがなく、顔を合わせるのはテレビ局だけという間柄です。これはそのような話をしているところなのですが、そもそも関西のニュースバラエティ番組では、ほとんど台本通りに進みません。

例えば、いちおう1から10まで台本があるんですが、司会者さんが始めたいところから始めるものですから、いきなり10番目からスタートというのも当たり前になっています。そして私が台本を追っている間に別の所に行ってしまう、結果、私が変なことを言うなどということもたまにあります。こういうことが続くと、私の方も次第に台本を見なくなってしまひまして、そこで例の折り鶴問題になった。

ここで会場の方にも聞いてみましょう。折り鶴のことをご存じの方は、どのくらいおられますか。手を挙げてみてください。…ほう、素晴らしいですね、見たところ8割ほどの方の手が挙がりました。ところが私は、その頃はとても忙しくて知らなかったんです。ご存じない方のために、簡単にお話しします。日本人のとあるグループが折り鶴をウクライナへ寄贈したことが発端です。そのグループというのは、知的障害を抱えた方の作業所だったそうなのですが、

ひろゆきさんが「そんなことをしても無駄だ」「折り鶴を贈るくらいなら、バイトでもして寄付した方がいいんじゃないか」と批判的なコメントで問題提起した。これが炎上したわけです。

私も本番前に気付けばよかったのですが、いかんせん台本を読まないクセがついてしまっていたので、肝心なところが抜けてしまった。そして本番になって、司会のハイヒールりんごさんから「岡部先生、あの折り鶴問題をどう思われますか？」といきなり振られてしまった。折り鶴などというものは、折りたい人は折ればいいし、そうでない人は折らなければいいのではないかな…。咄嗟にそのような回答が浮かんだのですが、それでは元も子もありません。そこで、このような悲惨な戦争に対し、どのような立場の人であれ平和への思いを込めて鶴を折るという行為は尊いのではないかと。それに今やこういう時代ですから、スマホで撮った写真に「ウクライナの平和を祈っています」とコメントを付けてSNSに投稿したら、すぐに現地に届くわけですよ。このようなことを思いつきで話したのですが、翌朝のスポーツ新聞を見て驚きました。折り鶴問題で、岡部が現代的な届け方に言及したという記事になっている。私はこの分野に特に詳しくはないので、気恥ずかしかったですね。

◆ウクライナでのテレビ出演

コロナ禍の最中ではありますが、私なりに力を入れていることがあって、それはウクライナのテレビへの出演です。3月から4月にかけてはかなりの依頼がありまして、平均して週1回ぐらいは出ていました。やはりウクライナの人たちにとっては、この戦争は世界にどう伝わっているのか、アジアではどうなのか、ということへの関心はかなり高いようです。お蔭で向こうの学生さんの間でも、けっこう知られるようになりました。ウクライナのウィキペディアにも私のことが出ているのが、ちょっとした自慢です。

この写真は私の講演の模様なのですが、講演の会場がウクライナの最高会議

（国会）で、日本で例えれば、第1委員会室です。日本の国会議事堂なら、よく予算委員会などが開かれている部屋ですね。一度はこのようなところで講演したいと思っていたら、2017年にチャンスが来ました。この時は日本経済の発展の歴史というお話をさせていただきました。聞くところによると、ここは普段なら首相とか国会議長しか使えない会議室でして、外国の方なら要人に限られるそうです。私の少し前にここで講演したのは、ジョー・バイデンです。本当に私でいいのですかと、思わず聞いてしまったほどです。いずれにしても、大変に有難いことでした。

それからこの写真は、私が出演した際のテレビ局のスタジオの風景です。ここで3月半ばに大阪で行われたウクライナの反戦デモについて、映像を見ながら解説しました。私なりにロシアのこともコメントできますのでね、この時はそのようなことも交えてお話したことを覚えています。なんといっても情報発信の拠点ですから、その後はスタジオをそっくり防空壕に移して、仮設の背景の前でキャスターさんが放送を続けるなど、苦労しておられるようです。

◆ロシアにおける活動

ここからは自分の活動の紹介を兼ね、ロシアのことをお話ししたいと思います。これまで私が特に力を入れてきたのは、北方領土での交流活動です。この地図をご覧ください。左側が日本の主張する国境で、エトロフ島とウルップ島との間に国境線があります。実際のところは右側みたいになってしまっています。そのような状況の北方領土で、われわれが実施してきたプロジェクトがどんなものかと言いますと、テレビで放映されたニュースの映像がありますので、2分間ほどご覧ください。

（編集部注／プロジェクトの概要）

9月15日から9月17日の日程で、岡部芳彦団長を含む58名が国後島を訪問しました。訪問団は、返還運動の担い手となる40歳未満の社会人や大

学生等の後継者を中心に編成されたものです。国後島訪問は、台風の影響で当初9月18日までであった予定を1日短縮しています。9月16日には島内視察、住民交流会、ホームビジットを実施しました。住民交流会では、交流専門家によるマンガ・ワークショップ、コスプレファッションショー・コンテスト、アニメソング・カラオケ大会、ミニライブ、意見交換等が行われました。日本人のサブカルチャーに興味・関心があるロシア人島民を中心に多数の参加者が来場・参加しました。〔平成29年度北方四島交流後継者訪問事業実施結果概要より引用〕

（ニュース映像での岡部さんのコメント）

このイベントのコンセプトは、プロジェクトの参加者と北方領土の住民との共同作業です。協力しながら一緒に何かをすることで、今後、お互いがどう付き合っていくか、どう暮らしていくのか、ということを考えるわけです。今回のことで、それぞれの答えが見つかったり、あるいは心の内に何か生まれたのであれば嬉しいです。

私はめったに原稿を見て話さないのですが、この時は違いました。ちょうど1週間前に北方領土へ別の訪問団が行っていきまして、メンバーだった国会議員の人が酩酊して「北方領土は戦争でしか返ってこないのか」などと大暴れをしてみました。そのようなことがあったばかりなので、私も慎重にコメントしています。

◆ロシア入国禁止措置

その後、コロナ感染が拡大したので、このプロジェクトは中止になっていました。それが今年は実施してもらえないかと政府の打診を受けていました。8月末から私が団長で行くという日程ですね。その矢先に戦争が始まり、私がロシアに入国禁止になってしまって、もう行くも行かないもない状況です。この入国禁止措置の1番目は岸田総理大臣、2番目は外務大臣ですが、私は63人

中62番目という順位です。措置が発令されたのは5月4日でしたが、翌週5月9日はロシアの戦勝記念日に当たります。ロシアではナチスドイツに勝ったことを記念してパレードなどが行われたのですが、こういったことがニュースになりました。

その中で、フジテレビが夕方のニュース番組への出演を依頼してきました。これまでもその番組にはリモート出演をしたことがあったので、それで良いのではと言ったのですが、いや、どうしてもスタジオに来て欲しいと。変だなと思ったのですが、今後のこともあるので東京までいったわけです。そして、スタジオに入って驚いた。私と並んで座る方がロシア研究者の中村逸郎先生で、この方がリストの63番目の方なんです。要するに、番組としてはリストの最後尾にいる2人を並べたかっただけなんですね。さすがバラエティのフジテレビだと思いました。

◆キエフからキーウへ

最近ウクライナの首都の名前がキーウに変わったことをご存じの方も多いかと思いますが、これを誰が決めたかというと僕が決めました。僕が決めたというのは大袈裟ですが、2019年に僕ら国際ウクライナ学会日本支部のウクライナ研究会の会合で考えて決めたことです。ロシア語読みでキエフはローマ字でKievと書きますが、ウクライナ語読みでのKyivに変えようという運動を2019年夏ごろにウクライナ政府が始めて1か月くらいで日本を含めて世界中の空港で表記が変わりました。そこまでは良かったのですが、東京のウクライナ大使館がカタカナも変えようと言い出して、当初案はこちら「クィイブ」でした。ウクライナ語でKyivを発音しますとクィイブという音なので、カタカナならこれだと思いましたが、私このときまで知らなかったのですが、日本では国名のカタカナの書き方は閣議決定されています。そして小さい「ィ」と大きい「イ」を重ねられないと決められています。それに反するものを出してき

たので、これは困ったなと思いました。急に地名を変えますと、大学もそうですが、世界史の教科書や大学入試でキエフ大公国があります。日本中の地図も全部刷り直しになります。大使館の名前も変えなくてはいけないとなりますので、2019年に研究者、外務省、大使館の方が集まりまして、会議をしてキエフが近いのではないか、という話になったベースがあって今回キエフに変更になりました。2019年のときには急に変えたら大混乱になると言っていたのに、年度末の3月に急に変えました。今どうなったかという大混乱です。地図の会社から私に電話かかってきて、「どうしたらいいですか」「シール貼ったらいいいじゃないですか」僕は言っているんですけど、他に方法もありませんので、来年擦り直しにしましょうね、と私は言っています。

◆ウクライナ・クラブの鮮明な写真の発見

私の研究について少しお話させてください。私の専門は日本人とウクライナ人の歴史ということで2冊の本を書かせていただきましたが、最初のほうは昨年2月に出しましたが、5月にはすでにウクライナ語で翻訳されまして、ウクライナでも刊行されております。実はウクライナというと急に有名になったと感じている一般の方も多いと思いますが、1930年代の日本人はウクライナ人とロシア人を明確に区別していました。満州にあった日本の情報機関の機密資料の中に右から3番目には「白系露人（ロシア人）操縦費」と「ウクライナ操縦費」が別に計上されている。現代の我々がソ連の人として一緒に見ていただけて、昔の人は分けて見ていたことが資料からもわかります。私の本の中から一つだけご紹介させてもらいたいと思います。満州国のハルビンには、当時ロシア人は約6万人に対してウクライナ人は約1万5千人が住んでいたと言われていまして、ウクライナ人のクラブがありました。そのウクライナ・クラブの写真について中国に残っている写真は右上のもの、ウクライナに残っているものは右下のものですけど、ちょっと不鮮明な写真です。このたび私が本を出すに

あたって使った写真は非常に鮮明な写真でありまして、真ん中には「ウクライナ民族の家」ウクライナ・クラブと文字まで撮れていまして、これは世界で一枚しか残っていません。これをどこで見つけたかという Yahoo オークションで見つけました。Yahoo オークションすごいですね。これ600円で売っていらして、ラッキーと思いまして、私入札しましたが珍しいことに最後3万円まで上がりました。私はこれがないと本の表紙に使えないので、震える手で10万円と入れまして、結局3万5千円ぐらいで落札することができましたが、600円からの値上がりでえらい目に遭いました。

ウクライナ人やウクライナ研究者からどうやって見つけたのかと聞かれますが、非常にこれ簡単な見つけ方でして、実は1930年代に日本の傀儡国家の満州国ができますと、日本の家族ごとの入植が進みました。家族で入植すると子どももいますので、日本人の学校が必要になります。小学校はありましたが、中学校・高校がない。女学校を作ろうとなりましたが、建物が立つまで2年間ぐらいかかってしまう。その間どこかいい場所はないかと探したら、ウクライナ・クラブの裏にグラウンドもあったので、その1階を借りようとなりました。その借りていた事実を満州に住んでいたウクライナ人の手記から見つけました。そこからハルビン日本人女学校の写真を日本で探したらいくらかでも出てきました。門の前で校長先生が撮った写真とか、卒業の集合写真とか、ウクライナ民族の家がハルビン日本人女学校の写真として見つかったわけです。この本には、そんな様々な発見を書いています。

戦後のシベリア抑留で日本の兵隊さんも55万人くらい抑留されて5万人がお亡くなりになりましたが、その中で一番環境が悪い北極圏のノリリスクという町の収容所に収容された日本人捕虜の兵隊さんとウクライナの独立運動していた人たちが一緒に戦ったということなども明らかにしております。ご関心のある方おられましたら先生方には専門書でもいいかと思いますが、『本当のウクライナ』に短くまとめているので、一度お読みいただければと思います。

◆ウクライナ国旗の由来

さて後半は今回のウクライナ戦争の背景の前に、本日、私はヴィシヴァンカという男性用の民族衣装を着ていて、女性用はイラストに描いたものになります。そしてウクライナの国旗もよく見かけるようになりました。ウクライナ人自身もこのウクライナの国旗は、農業国でもある豊かなウクライナの大地と青空を示していると100年以上そう説明されているから間違いではないのですが、歴史家的には間違いでして、この旗の色とは昔のウクライナを治めていたコサックの王様の軍旗です。そのため一時期は黄色を上にした上下逆に使われている時期もありました。イメージ通りウクライナの大地というのは俗説ですが、今ではそのほうが有名です。

◆ウクライナは隣の隣の国

ウクライナというと遠い国と感じがしますが、日本から見ますと隣の隣の国、隣の国は先ほども話に出た北方領土問題を抱えるロシアで、ロシアとウクライナは隣国だから戦争が起きているわけで、これは非常に近い存在だとイメージ的には言えます。最近やっと知られるようになりましたが、以前ボルシチはロシア料理だと勘違いされていました。ボルシチはウクライナ料理です。どうしてそうなったかという、ウクライナのものが日本に入ってくるときにロシアを通過してくるので、日本の人はボルシチがロシアのほうから来たからロシア料理というふうに思われていた。そういうものは日本には結構多い。これは位置関係から来ているというものをご紹介します。

◆ロシアにとって「おいしい」国

今回なぜこのようなことになったかという、一つはおいしい国だから、そ

して隣国だから。ロシアと国境を接しているから、国境問題があって領土問題もあって民族問題もあって戦争になってしまう。条件のところは日本も一緒でして危ういのですけど。もう一つのおいしい国というのはロシアにとって魅力的な国という意味です。これはテレビに最近出ますと、ほとんど戦争の解説ですので、ウクライナの文化とか綺麗な場所を紹介できないため一言でいうとき、陽気で明るくおいしい国ウクライナと紹介しますが、このときのおいしいは料理が美味しい、ボルシチが美味しいという意味ですけど、ロシアにとっては色々と旨味がある国であることも意味しています。こちらは10年以上前に私がウクライナのことを学生に説明するために作ったスライドです。まずウクライナはEUとロシアに挟まれて、政治経済で非常に重要であります。同時に地政学的にも非常に難しい位置にある。二つ目は旧ソ連の中で国土の広さは二番目、人口の多さは三番目の大きな国である。三つ目は黒海に面している。トルコとウクライナの間に海がありまして、海軍もあり、海上物流ルートとしても非常に重要である。この説明は今年から要らなくなりました。ご存じの通りパンの値段は上がり続けています。それはウクライナから世界に小麦が輸出できないからです。そして、その小麦の大半は貨物船で運んでいる。黒海の海上物流ルートというのは、ウクライナだけでなく世界にとっても非常に重要であることを痛感した年でもあります。

ウクライナの基礎的なデータとして、国土の広さは日本の1.6倍、人口の4,474万人はクリミア半島の200万人も含めています。首都はキーウ、民族はウクライナ人と答える人は77.8%で、ロシア人は17.3%となっています。しかしこの戦争が始まってから、自分はウクライナ人と答える人の比率は増え、ロシア人と答える人の比率は減っていつていると言われています。またクリミア・タタール人と呼ばれるクリミア半島に住むイスラム教徒の人たちもいます。国家語はウクライナ語でして、ロシア語も東部で話されています。宗教は正教会を中心とするキリスト教、あるいはユダヤ教、イスラム教の信仰があります。

日本と似ている点としてはロシアの隣国で領土問題、ウクライナはクリミ

ア、日本は北方領土があることですね。また大きな原子力災害（福島、チェルノブイリ）を経験していることです。写真は私がチェルノブイリに行った時のものです。

◆ロシア・ウクライナ戦争の背景

ロシア・ウクライナ戦争は急に起こったのかというとそうでもなくて、私もよく8年前からですよといいますが、実は30年前から始まっていると言ってもいいのではないかと思います。新聞記事左から「ウクライナなどへガス供給カット」「ガス輸出 露が停止、EU 7 か国にも影響」「露、ガス協議で揺さぶり」など最近こういう記事を見ると感じる方も多いかと思いますが、日付を出しますと左から1994年、2005年、2015年の記事です。今年の記事ではありません。この30年間、ウクライナに対してロシアは一度たりとも安定的なエネルギー供給国ではありません。これをもっとたくさん出しますと、こんな感じで毎年同じことやっている。こういうことが続いてきたということも戦争の背景にはあるということです。

これらがあったにも関わらず、日本は天然ガスを依存しようという計画が進んでまいりまして、九州から見るとお隣の広島電力は50%ほど買っていて、かなり厳しい状況になっております。

もう一つは昨年、本当はこの時点に気付くべきでしたが、2021年3月から4月にかけてロシア軍がウクライナ国境に11万人集結したことがありました。このときアメリカだけがロシア軍がウクライナに侵攻するのではないか言いましたが、このとき誰も信じませんでした。残念ながら僕も信じませんでした。日本の新聞もほとんど取り上げずに、今残っているニュースは海外メディアのものしかなくて、4月になると撤収し始めたので、あれは何だったのかな、と。その一年後にはまた集結し始めて今回の戦争となったので、昨年の集結は予行演習であったことは間違いない。本当はこのときに気付いておくべきだったか

など。ちょっと悔やんでおります。

◆オレンジ革命とマイダン革命

戦争の背景となるものは30年前から始まっていたといいましたが、重要なのは2014年のマイダン革命ですね。その前にお話をしておく必要があるのがさらに10年前の2004年のオレンジ革命です。これは超ソフトな最初の革命で、ウクライナはソ連から独立してからの30年超の間に2回の革命がありまして、その1つ目です。どうして超ソフトな革命かというと誰も死者が出なかったからです。そのとき大統領選挙があり、候補になったのは東ウクライナ寄りといわれたヤヌコーヴィチ、対立候補はユシチェンコで少しEU寄りといわれます。なぜユシチェンコだけ2枚写真があるかということ、選挙戦の最中に倒れます。次テレビカメラの前に出てきたら、顔が溶けちゃっていた。健康診断の結果、致死量のダイオキシンが体から出てきた。毒殺未遂ですね。当然疑われるのはヤヌコーヴィチ、これは今では迷宮入りしまして、誰が犯人かわかりません。犯人は誰かと敢えて聞かれたときだけ私は答えますが、私はヤヌコーヴィチがやったと思っていません。わかりやす過ぎますからね。これはおそらくロシアの情報機関だと思います。そんなことがありながら選挙が行われました。それでおかしいじゃないかとユシチェンコの味方をしたのがユーリヤ・ティモシェンコさん、世界で一番美しい首相という形容はスペインのとあるタブロイド紙が世界美人政治家コンテストという馬鹿々々しいものをやっております、その上位によく上がってくるので、こういう表現をされる。この人が味方になって選挙が行われましたが、その背景にはクリミアにロシア海軍の基地があり、セバストポリ軍港のロシアへの貸与を続けるか、撤収させるかという黒海戦艦問題も争点にあがって、選挙が行われました。当初、当選したのはヤヌコーヴィチでしたが、毒殺騒ぎもあり「これおかしいだろ」と市民が街頭に出て抗議運動を行った結果、選挙結果がひっくり返り、ユシチェンコが当選

したというのが2004年のオレンジ革命のざっくりとした説明です。ただユシチェンコってどういう人だったかというと、この例えをして大変申し訳ないですが、個人的に知っている人なので例えますと言でいうと鳩山由紀夫さんみたいな人です。何一つうまくいかなかった。決められない政権で内政は混乱しまして、その中で2010年に次の大統領選が行われまして、またヤヌコーヴィチが出てきます。対立候補になったのはユーリヤ・ティモシェンコです。ティモシェンコは日本でも漫画になっているらしくて、それなりに人気がありますが、私も何度かお会いしたことがあります。ユーリア・ティモシェンコさんは一言でいうと真っ黒な方です。汚職の疑いあり過ぎという意味です。そんな二人が争いますが、ヤヌコーヴィチが勝ちまして。そのあとティモシェンコに対して汚職に関する捜査が始まりまして、叩けば埃が出る人ですから逮捕されてしまう。西側諸国は人権侵害だと批判をしています。

こうして始まったヤヌコーヴィチ政権は、汚職が酷過ぎる、そして非常に権威主義的だった。ユシチェンコ大統領のときにキーウの街中を歩いていたときに友人が「あ、ユシチェンコだ」とキーウの目抜き通りを大統領の車が警護車もつけずに一台だけで通っていったのを見かけて、ウクライナの大統領はカジュアルだなーって思いました。ヤヌコーヴィチが大統領のときに今度はキーウの街中を一人で歩いていますと、警察官に止められまして「今から大統領が通るから動かないでくれ」と言われて、10分くらい待たされて、ちょっと私もイライラしてきて、「動いたらどうなるんですか」と警官に聞いたところ「ビルの上を見てください、スナイパーが配置されて撃たれるから」と。それにはあまり驚かなかったのですが、そのあと車列が通ってビックリしました。先頭に白バイ3台くらい、その後ろにパトカー、その次に黒塗りの警護車が3台、そのあとに大統領が乗っていると思われる黒塗りの車が何台か、その後ろにワゴン車、救急車、通信車といつまで続くねん、というトランプ大統領みたいな車列がずっと通っていきました。こんなことさすがにウクライナの大統領にはいらんやろ、とユシチェンコと違い過ぎて思ったことがありました。

もう一つは写真のものですけど、キーウの中心にある建物でして、ウクライナ人の友人の運転でこの近くを通ったときに「あれ何？」と聞いたら、「ドクターヘリの発着場らしいよ」と、全面ミラー張りで幾何学模様の凄い豪華仕様のドクターヘリの発着場でウクライナはこんな金持ちだったっけ？と思いました。後でわかったのですが、大統領の家の横にあって自分のためだけに使うという総工費300億円というもので、こういうことが横行していた。

私自身も経験がありまして、いま紛争地帯になってしまいましたけど、東ウクライナのドネツク州に出張でよく行っていました。ドネツクに行きますと知事を表敬訪問してくれと言われて、ドネツク行政長（知事）のブリズニュークさんに会いに行きました。講演でネタにして本人には申し訳ないのですが、この知事はヤヌコーヴィチさんの右腕と言われた人で、電話帳みたいな分厚い冊子を見せられまして、何かと思ったらドネツク州に光ファイバー網を通す計画書でした。どうしてこういう話を聞かされるのかな、と思ったら「君ら人脈あるんやったら、言うことを聞く日本企業を連れてきて」と言われました。私は嫌な話だなーと思っていたら、そのとき隣りに一緒にいた日本人の教員がいらっしゃいまして、その方は真面目な方でして「その話はキーウの大使館に言ったらいかがですか」言ったら、この方が机をバーンと叩かれて「君らは僕が馬鹿だと思っているのか。そんなことはわかっている。君と俺で何をやるかだ」と、そんな話を聞いてられへんわと思っていましたが、私はその話を遮る勇気もなかったので30分くらい聞いていましたが、だんだんイライラして「すみません、もし紹介したらどうなるんですか」と聞いたら「5%だ」と言われまして、総工費500億円なので25億円ですね。私いまここに立っていないかもしれないですけど、汚職体質はやっぱりあるなと感じました。

そんな中で忘れてはいけないのは、よくウクライナの政権はロシア寄り、西側寄りと区切りたがるのですが、伝統的には中立化政策です。ロシア寄りと言われるヤヌコーヴィチ大統領もロシアにべったりではなくて、2013年の夏くらいからEUとの協力協定を結ぶ。これを結ぶとウクライナの人たちがビザな

しで働きに行ける、あるいは自由貿易になってEUのものが安く買える、ということでウクライナの人たちが大喜びしました。ただ数か月後の2013年11月になるとヤヌコーヴィチ大統領がこれを止めると言い出しました。理由は未だにわかっていなくて、ロシアからの圧力や他にもあったと言われていまして、それが理由じゃないかというのは後程お話しします。

それで当然怒ったのは国民でして、EUで働いて豊かな生活ができると思っていたので、これは話にならんわ、ということで、キーウの中心の独立広場、ウクライナ語で広場はマイダンといいますが、EU、ヨーロッパの広場だと名付けまして抗議活動が始まります。

（抗議活動の動画を視聴）

これ何をしているかというのと、2013年の年末にマイダンの広場に30万人の人が集まっていると。ここで一斉に何かしたらギネスブックに載るんじゃないかと、言い出してですね。大勢で一斉にできることってあまりないじゃないですか。そこで国歌を歌おうという話になった。どうして夜にやったかというのと、スマホのライトをつけて上から写真を撮ったら数を数えられるじゃないですか。それで30万人以上いたら達成と。そんなことやっていました。30万人も集まって、政治家が演説した後に歌手がやってきてコンサートを始めたりとのんびりやっていましたが、年が明けるとこんなになってしまいます。

（政府側と市民側の大規模衝突の動画を視聴）

2014年2月に市民と治安部隊が衝突して100人近い人が亡くなってしまう。反政府側の主役になったのはこちらの3人でして、3人とも会ったことがあります。左からロシアからよくネオナチだといわれる民族主義政党「自由」党首のチャフニボークです。真ん中の背が高い人は元WBC世界ヘビー級チャンピオンで「打撃党」党首のヴィタリー・クリチコで、後にキーウ市長です。右のアルセニー・ヤツェニークさんは「祖国党」のナンバー2です。当時、党首のユーリヤ・ティモシェンコが投獄中でしたので。

中央前の小柄な女性は誰かというのと、アメリカのヴィクトリア・ヌーラン

ド国務次官補（ウクライナ担当）でして、駐ウクライナ・アメリカ大使のジェフ・パイエットとの政変の最中の電話での会話を盗聴され、YouTubeに匿名で音声アップされてしまうことがありました。その内容は次の政権はこういう枠組みがいいよね、というもので、こんな盗聴ができるのはロシアの情報機関しかないのですが、このころからロシア政府はプロパガンダを流し出して、実はこの政変はアメリカの情報機関CIAが仕掛けていると主張し始めました。そのときにロシア政府が証拠の写真として出てきたものを見て、私は驚愕しました。ヌーランド国務次官補がキーウのマイダンに行ってデモ隊にクッキーを配っている写真でした。ほら支援しているじゃないか、と。クッキー配るヌーランド国務次官補もどうかしていると思いますが、クッキー配って革命起こるのなら私もクッキー配るわけでして、ロシアの主張はちょっと無理があります。

ただ一つ問題は今年ですね。今年2月24日に戦争が始まる前にロシアのテレビで特集番組が組まれて、繰り返し流れていました。アメリカ政権内のメンバーが2014年のときにジェン・サキは国務省報道官、さきほどのヌーランドは国務次官補、ジョー・バイデンは副大統領でしたが、2022年にはそれぞれホワイトハウス報道官、国務次官、大統領と同じメンバーがランクを上げて、今年はまたロシアを攻撃しようとしているというのが、ロシア国内でずっとテレビで流されていました。私はそのテレビを見たときにどう思ったかという、正気ではないと思いました。でも本当は気付くべきですが、何か仕掛けてくるというプロパガンダじゃないですか。戦争を始めるときの口実にしたいから流していただけですけど、変なことを言っているなとは思っていました。理由はわからないのですが、アメリカの民主党政権はウクライナを巡ってロシアとの相性が悪いという事実はあるんですね。

◆元大統領の汚職の証拠

それで話を2014年に戻りまして、野党のリーダーとヤヌコーヴィチ大統領

がこれは駄目だということになりまして、大統領選を早期にやると協定を結びます。

（協定の直後にヤヌコービッチ大統領の逃亡の映像を視聴）

街中にカメラがあるので、大統領が搭乗するヘリコプターとか、家から走り去る謎のトレーラーが映ったりしました。中に何が入っているか、私は金塊だと思っていますけれども、大統領が逃げてしまったのを撮られた。そして政権が崩壊をしてしまいます。

キエフの近郊、日本で言えば東京23区の中に広大な土地に大統領の家があるんですけど、大統領がいなくなったから入ってみますと、クラシックカーのコレクション、自分しか見ない私設動物園、シャンデリアは52億円。なぜ金額を知っているかという、律儀に領収書が残っていたからです。ところでEUとの協定を結ばなかった理由がわからなかったのですが、理由のひとつは、実はEUはこのようなことを知っていたのではないかと。それで、協定を結んだ後に助成金を出すわけですけど、このようなことに助成金を使われたらたまらないということで、どうやら助成金を300億円と言ったんじゃないかという説がありまして。300億円だったら、ドクターヘリの発着場しか建てられないじゃないですか。（つまりは助成金を着服できない。）そういうことも、彼がEUと協定を結ばなかった理由なのではないかと言われています。

そのような状況の中で、私も3ヶ月してウクライナに入りまして、世の中変わったなと思ったのは、以前研究者としての友人で、西ウクライナの地方大学の教授だった方が、副首相になっていたりとかしまして。やはりこれは革命だったんだなと感じたりもしました。

そして政変から3カ月後に大統領選挙が行われまして、ポロシェンコという人が当選をするんですけど、この方は元々チョコレート会社を運営する企業家でして、そこから政界入りして、外務大臣とか安全保障のポストを経て、大統領のポストをゲットしました。ポロシェンコも個人的には好きでして。ポロシェンコ政権の5年間で彼にあったことは5、6回ありますが、残念ながら、

東ウクライナの紛争もクリミアの占領も解決することができませんでした。

◆ゼレンスキー大統領

そして次の大統領選挙、2019年4月を迎えて候補となったのはこの方です。

（芸人時代のゼレンスキーの動画を視聴）

はい、我らがゼレンスキーなんですけれども、彼の芸風は、3割ぐらいがネタで2割ぐらいがコントで、でも、あと残りの5割は政治風刺のコントなんです。僕は彼のコントを見るのが好きだったんですけど、そんな彼が急に大統領選に出ると言ったとき、ちょっと耳を疑ったんですね。「あれ？ ゼレンスキーって大統領になってなかったかな？」と思ったら……これなんですね。

（ゼレンスキー主演の、学校の先生が大統領になるドラマのワンシーンを視聴）

2015年から『国民の僕（しもべ）』というドラマで、彼は生徒も言うことを聞かないような高校教師役を演じました。その高校教師が政治批判を職員室でしているところを生徒にスマートフォンで盗撮されて、それをYouTubeにアップされたらバズって人気が出て、大統領に当選するという内容です。簡単に言うと、水戸黄門みたいなドラマなんですね。水戸黄門は悪代官をやっつけるわけですけど、このドラマも、庶民感覚を持った大統領が地方に行って、バッタバッタと悪徳官僚を切っていくという内容で人気が出ました。そして彼が立候補を表明して、現実にもこのように当選しました。

そして非常に国民に近いというイメージを売り出しました。そして大統領就任式をオープンな形で行った初めての大統領ということになりました。就任式の際に自撮りなんかもするという方です。

私はゼレンスキーには2回お会いしたことがありまして、最初は、2019年に当選してから4か月ぐらい後、国際会議に行ったときです。各国の現職大統領に元大統領やゼレンスキー夫妻もいて、その中で私が3列目に立ってしまし

て、ちょうど写真を撮り終わって解散となったときに、トントンと後ろからゼレンスキー大統領の肩を叩いて「すみません、写真撮ってください」と頼んだら「ああ、ええよ」という話になって、彼の隣に立ったんですけど、なかなかうまくいかずに悪戦苦闘してしまっ……。その日、実は生まれて初めての自撮りだったんですね。そうしたら、ゼレンスキーに「あんた自撮りしたことないのか」と言われまして、「初めてなんですよ」と言ったら、「じゃあ貸してみな」と言って一緒に自撮りをしてくれたんです。

そして、それから1か月半ほど後に、天皇陛下がご即位されまして、ゼレンスキーが来日しました。その際に私は朝食会に招かれました。ウクライナの民族衣装で一番後ろに立っていて、ゼレンスキーが僕の前に来たときに「あ、セルフイー（自撮り）マンド！」と言われまして、「ええ?! 覚えてますか?」と言ったら「印象的だったから覚えてるよ。その後、自撮りをできるようになったか?」と訊かれて、「いや、まだちょっと怪しいけど、できます」みたいなことを言いました。それで、その9月のときの写真をプリントしまして、「ゼレンスキー大統領、日本へようこそ、岡部芳彦」と書いてプレゼントしたんですね。そんなこともありました。気さくな人であることは間違いないかなという風に思いました。

◆今回の戦争の歴史的背景

今回の最後の項目になりました。今回の戦争の歴史的・思想的背景になります。ロシアでは、ウクライナはロシア発祥だとよく言われます。9世紀から13世紀にキエフ・ルーシという国がありまして、そこがキエフから発祥しているルーシということで、ルーシはロシアということですから、キエフはロシア発祥ゆえウクライナは自分のものだと言っているのですが、これはかなり無理がありまして、キエフ・ルーシがロシア起源だとロシアが言い出したのは、16世紀のイヴァン雷帝（ロシア・ツァーリ国）のときなんですね。ということ

で、300年位経ってから「あの国は実は我々の発祥の地だ」と言い出したんですね。これは後付けの主張で、ちょっと無理があるんじゃないかなと、私は考えています。

それで地図を見てみますと、キエフ・ルーシのかつての領域と現在の地図を重ねますと、何とも微妙なんですよ。現在のウクライナはキエフ・ルーシの南の三分の一くらいの位置にあるんですね。残りは現在のロシアにある。それでロシア側からすると「キエフ・ルーシは我々の発祥の地だから、ウクライナは我々のものだ」となりますし、ウクライナ側からすると「いや、ウクライナが発祥でロシアまで広がっているのだから、モスクワはうちのものじゃないか」という話になってしまうということになります。

ただですね、今回、非常に奇妙な縁があるなと思うのは、ロシアとウクライナの大統領の名前が一緒なんです。同じウラジーミル（・プーチン）とヴォロディミール（・ゼレンスキー）なんですね。このヴォロディミールというのは、ウクライナでのウラジーミルの呼びかたですから、同じなんですね。キエフ・ルーシには何人か有名な王様がいて、国をキリスト教化した時の王様の名前がヴォロディミールなんですね。ですから、キリスト教としては、非常に重要なので、よく使われる名前なんですね。だから2人は名前が一緒ということなんですね。

それはさておき、今回の戦争ついてですが、これは2014年から8年続いているんですね。とはいえ、我々が思ってるイメージとは違って、常にウクライナ全土で戦争が起こっていたわけではありません。

2014年、クリミア半島がいつも簡単に占領されてしまっていて、東ウクライナでも戦闘が始まりました。その時のキーワードにハイブリッド戦争というのがありました。ハイブリッドとは混合のことですよ。何を合わせるのかというと、非正規と正規の戦闘を合わせるという意味でありまして。このときに採られた手段のひとつはこれです（ロシアの兵士の写真を投影）これはクリミアにきたロシア軍の兵士なんですけど、部隊マークをつけていなければ、ナ

ナンバープレートをつけてない車に乗ってもきたということなんですね。しかし、どう見ても頭の前からつま先までロシア軍の完全装備なんです。

この時に「これはロシア軍なんじゃないか？」と西側の国は非難したんですけど、プーチン大統領は公式会見で「これは、ミリタリーマニアだ」と。「ロシアの軍服というのはミリタリーショップとかインターネットで買える」と言っただけです。「だから、これは（そういうショップで）買って着ている人だ」と。

プーチン大統領は三年くらいすると、嘘の発言をしたことについては、あの時の発言は嘘だったと言うんですね。そして、ロシア国営テレビで三年くらいたってから、「あの時はあのようにつてたけれども、あれはロシア軍だった」と言っていましたね。だからプーチンの発言をあまり信じてはいけないんですね。というわけで、あのときのロシア軍は、正規なのに非正規だということにされたんですね。

この時、東ウクライナでは放送局がどんどん占拠され、ロシアの情報機関員が電波を切り替えてしまって、ロシアの放送しか流れない。当時、ロシアの放送局ではウクライナ軍が人々を虐殺して、皆殺しにしているというニュースが流れてますので、地元の人たちが不安になってしまってロシア寄りになっていく。そのように世論を誘導した。このようなことの組み合わせで戦争を行っていったわけなんですね。

◆傀儡国家建国の際に必要なこと

実際に国家建国の際に必要なのは、協力者なんですね。これ、ちょっと面白くて、僕が好きなエピソードですけど、クリミア半島がなぜ簡単に占領されてしまったか……という。他国を併合する時には、現地の協力者が必要なんです。クリミアで協力者になったのが、ウクライナ時代は、クリミア州議会の議員だったアクシヨノフという人なんですね。今この人がクリミアのトップです。彼は、以前はギャングだったんですね。顔もなかなかいいじゃないです

か。男前で、ギャングで、政治経験があったら、そのような人が音頭を取るとすぐ上手いくんですよ。ロシアはいいカウンターパート見つけたので、うまくいった。

しかし、ウクライナまで行くと、ウクライナ寄りの人が多いので、なかなかいい人が見つけれなくて……それで見つけたのがプシーリンという人なんです。この人はいろんなテレビに今でもよく出てきます。ドネツク人民共和国のトップなんですけれども、元々はねずみ講の胴元だったんです。そして2014年の時点では無職だったんです。プシーリンにとっては美味しい話ですよ。無職の人が国のトップになれるんですから、話に乗りますよね。それでも、あまり役に立たない人だったので、途中でザハルチェンコという人にすげ替えられます。しかし、ザハルチェンコさんはロシアの言うことをあまり聞かなかったので、爆殺されてしまいます。そしてまたプシーリンに戻ってしまいました。

それを見て、プロトニツキーというルカンスク人民共和国のトップの人が、ある日いなくなっていました。発見されたときはロシアの空港でキャリアバッグをコロコロと引いていたんです。もう逃げちゃったんですね、怖くなってしまっ。

いい現地協力者を見つけるというのが、併合のポイントです。今回の戦争で、南部のヘルソンとかがうまくいかないのはそのせいなんです。ヘルソンで見つけてきた人は、自称ジャーナリストの人です。さすがに、この長髪の見目はいけないんじゃないかということで、十日くらい経ちますと短髪できれいになっていたということがかつてありまして、苦勞がしのばれるわけなんですけど……。この彼には、現地のパルチザンの抵抗運動から暗殺予告が出されております。「(暗殺されるのは)次はお前だ」といった状態にもなっています。

◆妄想の歴史観と裸の王様化

話をロシアに戻しますと、この戦争が起こった理由をいくつかあげられます。私は理由のひとつを「妄想の歴史観」だと思っています。それともうひとつは「裸の王様化」だと思っています。

まず「裸の王様化」だけ先に簡単に説明しますと、プーチンが使用する相手と6メートル離れているテーブルというのは、皆さんもよくご覧になられていると思うんですけど、国防大臣と話するときも他の大臣と話するときも、全部6メートルで、これはコロナ対策じゃないかって最初言われたんですけど、コロナ対策でないことは明白でして、同時期に国際婦人デーの時にCAの女性とプーチンが食事している時は、CAの隣に座っているんですよね。ですから、暗殺を警戒しているというのは、間違いないです。

「妄想の歴史観」についてですけれども、これがこの戦争の最大の原因かもしれない。ウクライナのNATO加盟問題とかでもなくて、これなのではないかと。プーチン大統領はこの5年間くらい、イヴァン・イリイン（1883－1954ロシアの宗教哲学者・政治哲学者。20世紀ロシアの作家や民族主義者に影響を与えた人物と評されることもある）という歴史家のファンだと公言しています。演説で本でもよく書いています。彼については、ティモシー・スナイダーというエール大学の教授が著した『自由な世界』という本で詳しく書かれています。

イリインという人は、ウクライナ人はロシア人とは別個の存在だということを否定していて、「ウクライナ」と括弧に括って記述する人だったんですね。簡単に言うと「ウクライナ人っていうのは、この世に存在しない」と主張しているんですね。

プーチン大統領がイリインの主張をもとに執筆して去年の7月に出したのが、「ロシア人とウクライナ人の民族的一体性」という論文です。「ウクライナとロシアは兄弟だし、ウクライナの主権というものはロシア無くしてはないん

だ」「ウクライナの完全な主権はロシアとのパートナー関係の中でこそ可能だということを確認している」ということを主張しているんですね。

ロシア帝国とソ連のウクライナ支配の300年において、ロシア帝国ではウクライナ人は「小ロシア人」と呼ばれていたんですね。そして、ウクライナ語が禁止されることは、ロシア帝国下とソ連で合わせて10回以上あったと言われております。そうすると、ウクライナ語の教育もできませんよね。ウクライナ人であることを認められないので。このようなこともあり、ロシア人の潜在意識には、ウクライナ人という存在は認めないということは、かなりあるといえるのではないのでしょうか。

◆「妄想のウクライナ」とマジック・リアリズム

プーチン大統領の「妄想のウクライナ」というのは「ウクライナは、本当は17世紀（1654年時点での）の狭い領域だけなのではないか。そこにロシア帝国から中央から北西部にかけての広大な領土がくっつき、第一次世界大戦後に東部から東南部にかけての領土がくっつき、第二次世界大戦が始まったとき、ポーランドを分割した時に奪い、最後にフルシチョフの時代にクリミア半島がくっついて、現在のウクライナの領土が出来上がった。それゆえ、本当はウクライナというのは17世紀の狭い領域だけなんだよ」というようにプーチンが考えているということです。

よく考えてみると、現在ロシアが占領している地域は、第一次世界大戦後にウクライナの領土になった地域じゃないですか。今回の戦争が歴史観に基づく戦争だというのは、このことからよくわかるんです。でも、このプーチンの主張はすぐに否定できるんですよ。僕の書いた本にも掲載されているんですが、1938年の日本の外交雑誌に乗った地図には、ウクライナ人が住んでいる地域っていうのは、今とほぼ同じ形か、今よりロシア側に張り出っていて、かなり大きいんですね。

この地図を見ると、80年前の日本人でも正確に理解していることを、今の時代に否定しようとしているということになるわけなんですね。この地図ではクリミア半島が白色で表示されているので、ウクライナに不利なのではないかと言われることもありますけど、実は違うんですね。日本の外交当局は、クリミアにクリミア・タタール人というイスラム教徒が住んでいることを正確に把握していたから、白色で表示しているということなんですね。そういうことですから、もうかなり正確に80年前に日本はこのあたりの情勢を把握していたんですけど、プーチン大統領の頭はそれ以下ということになります。

この間びっくりしたんですけど、メドベージェフ前ロシア大統領がテレグラフに投稿したんですけど、「ウクライナの領土は今のようなものなんじゃなくて、理想は狭い領土の国だよ。ウクライナにはちょっとだけ残して、あとは、近隣国で分割しよう」と言っているんですよ。こういう系の人も、もう出てきております。

今回の戦争の背景は何か。僕は「マジック・リアリズム」ではないかと考えています。マジック・リアリズムっていうのは、芸術とか建築で取られる技法で、「非日常的なことを日常として描く」というものです。世界中でいろんな作家や芸術家がいるんですけど、ロシア関係であげると、ゴーゴリとブルガーコフという人が挙げられます。ゴーゴリはロシア文学で扱われるんですが、ウクライナ人です。

さて、プーチン大統領の頭の中には、西側のロシアとの対立もありますし、そういうのに対応するプーチン大統領の外面である「大統領職」と、内面である「思想」という、「まともなプーチン」と「まともではないプーチン」というのが混在しているのではないかと思います。

プーチンは大統領ですから、安全保障の問題に携わるというのは、大統領として当たり前の仕事のひとつです。しかし、今回の戦争が始まってからプーチン大統領が言っている「ウクライナのNATO加盟問題」よりも原因は他にあるのではないかと。彼は戦争が始まった時に「これは戦争ではない。特別軍事作

戦だ」と言っているんですね。そして「ウクライナ人はナチスみたいな人だから彼らを非ナチ化しないといけない」と言ったり、だんだん酷くなっていった「非ウクライナ化しなければいけない」と言い出したり、「西側がウクライナで生物兵器を開発している」と言い出したり、「核兵器の保有計画もある」と言い出したりしているんですね。プーチン大統領の中では、これはリアリズムなんですね。これは魔法的リアリズムに似ている。どう考えても「非日常」なんですけど、彼らにとっては「日常」なんですね。

西側諸国は、これは戦争だし支援しないとウクライナが占領されてしまうから支援しないといけないですね。食糧援助や経済援助やNATOの加盟問題もありますし。ということで、この両者（プーチンのロシアと西側諸国）は全く噛み合わないんですよ。

それでマクロン大統領がプーチンを説得に行きました。長さ6メートルのテーブルで6時間会談したんですけど、このときマクロンは「ウクライナのフィンランド化で何とかカタをつけてくれないか」と言ったんですね。「フィンランド化」というのは「中立化」ということですね。それに対してプーチンは6時間ずっと歴史の話をしていたらしいんですよ。そしてその後にマクロンが記者会見で明らかにしてくれたんですけど、「自分は政治課題を話したんだ

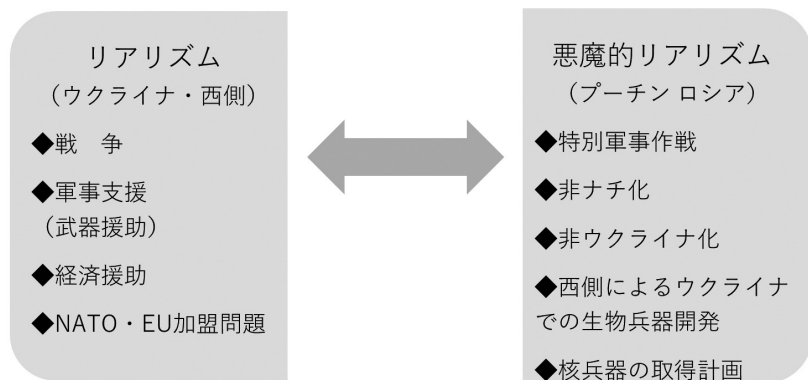


図 ウクライナ・ロシア戦争の背景

けど、プーチン大統領の返事っていうのは、非ナチ化だとか、ウクライナは歴史的にロシアだとかいう、そんなことばかり6時間話していた」というんですね。このように話が全く噛み合わないということを見せつけられてしまった。

しかもマクロンの提案したフィンランド化っていうのは、死語になっちゃったんですね、この半年で。戦後ずっと中立化を続けてきたのに、もうあのロシアがとんでもないことになってしまっただけで、フィンランドもスウェーデンもNATOに加盟するということになりましたので……。

でも、変な話ですよ。この戦争はウクライナのNATO加盟で起こったというのなら、真っ先にフィンランドとスウェーデンを攻撃しないといけないんですけど、ロシアは具体的にアクションを起こさない。ということからも、この戦争は、やっぱりプーチン大統領の歴史観から起こっているということが裏付けられるのではないかという風に思われます。

◆戦争はどのように終結するのだろうか

この戦争はどう終わるのかということですが……。実はここ最近、プーチン大統領はあんまりマジックなことを言わなくなっているんですよ。もう、あんまり国内でも言わなくなってきた、「非ウクライナ化」だというようなイカれたことを言わなくなってきたので、もしかしたら、話し合いのベースには近づいてきているかなといえます。結果として、この戦争がどう終わるかというのは、戦場の趨勢で決まるのは間違いないですが、政治的な立場としては、ちょっと立場が（強硬な態度から軟化の方向にひとつ）降りてきているのは間違いないかな。

そして、ひとつお話しすると、先日、小原プラスっていうタレントさんと一緒にテレビに出たんですね。彼は5歳から姫路に住んでいた関西系のロシア人タレントで本も出している人です。その彼が、この戦争で完全にプーチンに嫌

気がさして、ずっと批判的なことをテレビで言っているのです、ロシア人から批判されるらしいんですよ。ロシア人は、こういうことを言うらしいんですよ。「2014年のマイダン革命以降、ウクライナの政権はネオナチで、ウクライナは民族主義者に支配されていて、東ウクライナでロシア語を喋る人たちは子供も含めて虐殺されてきた。そんなかわいそうなウクライナ人を解放するために、今「Zマーク」を付けたロシア軍がウクライナで頑張っているんだ。欧米のロシアに対する経済制裁も、ウクライナのネオナチが焚きつけたもので、ロシア人の暮らしは苦しいけど、兄弟であるウクライナ人を助けるために、今は頑張らないといけないよね」って。こう信じ込んでいるロシア人が多いという話をテレビで言っていました。

これを聞いたときに、これはすごく根深い問題だと思いました。プーチン大統領の政権の側からすると、そういったプロパガンダで煽りに煽ったんですけど、それによって現在では国民のほうがプーチン大統領より「右」になっておりまして、なかなか引くに引けない状況になっているんじゃないかな、と私は分析します。

ただ、最後に忘れてはならないこととしては、最初に言いましたように、理由はどうあれやはりこれはロシアが戦争を始めたということをもう一度申し上げて……。ちょっと長くなりましたけど、この講演のパートを終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。

講演者プロフィール

1973年9月9日、兵庫県生まれ。神戸学院大学経済学部教授、同国際交流センター所長。博士（歴史学、中部大学2021年）、博士（経済学、神戸学院大学2015年）。ウクライナ国立農業科学アカデミー外国人会員。ウクライナ研究会（国際ウクライナ学会日本支部）会長。主な受賞歴：ウクライナ内閣名誉章（2021年）、ウクライナ最高会議章（2019年）、ウクライナ大統領付属国家行政アカデミー名誉教授（2019年）、ウクライナ国立農業科学アカデミー名誉章（2017年）、名誉博士（ウクライナ国立農業科学アカデミー・アグロエコロジー環境マネジメント研究所第68号、2013年）。